

## 成果報告書

カントの『純粹理性批判』における理性の弁証論と超越論的觀念論について

報告者：中山弘太郎

### 【研究背景・課題】

本研究は二つの相互に関連する課題を扱う。第一の課題はカントの『純粹理性批判』における理性の弁証論の構造の解明であり、第二の課題はその枠組みをなす超越論的觀念論に関する研究状況の批判的整理である。第一の課題は『純粹理性批判』超越論的弁証論を解釈上の主題とする。『純粹理性批判』はその出版以来、超越論的分析論が解釈論争上の中心であり続けてきた。この傾向はとりわけ、二十世紀の英米圏におけるカント研究において顕著であったが、グライアによる革新的な研究以後（Grier 2001）、近年では正当な理性使用から、批判されるべき超越的な理性使用への動的な移行構造が注目を集めている

（Willaschek 2018）。本研究は『純粹理性批判』における理性の統制的使用の概念に着目して、グライアによる二段階構造説、ヴィラシェクの三段階構造説に代わる解釈上の選択肢を提示する。第二の課題は超越論的觀念論研究に関する批判的サーベイを目指すものである。カントの現象と物自体の区別、および超越論的觀念論の教説はカント哲学における最も古く、また最も大きな研究上の課題であるが、2000年以降に急速な研究上の発展を見せている。本研究では重要研究に関する批判的サーベイを展開するとともに、近年のショーペンハウアー研究との対比を試み、研究手法としての現代カント研究の「輸出」可能性を模索する。

### 【研究成果】

本研究の第一の課題に関しては、超越論的弁証論の構造分析をカント協会大会にて発表し [1]、第二の課題はショーペンハウアー協会からの招待講演にて発表した [2]。

超越論的弁証論の構造に関しては、グライアによる二段階構造説、ヴィラシェクによる三段階構造説が提示されてきたが、超越論的弁証論附録の分析から本研究が明らかにするところによれば、弁証論における「移行」の構造は以下の四段階をなしている：①対象ではなく単に概念に関わる理性の論理的使用、②自然の統一一般に関わる理性の統制的使用（弁証論附録前半部の主題）、③自然の統一の必然性のたんなる説明原理としての超越論的理念（弁証論附録後半部の主題）、④超越的对象をめぐる誤謬（弁証論本論が暴露する誤謬）。この四段階構造説により、二段階構造説において不明瞭であった統制的使用と誤謬

の関係が明らかになるだけでなく、三段階構造説が説明を与えていない、自然科学一般の前提としての自然の統一というより穏当な想定と、魂や世界、神に「かのように」というしかたで言及する、より論争的な主張との関係も整理することができる。

第二の課題である超越論的観念論研究に関する批判的サーベイに関しては、三つの基準から諸解釈を分類した。本研究の特異性は通常の現象主義的解釈、方法論的二側面解釈、形而上学的二側面解釈という三分類に加えて、カントの経験の可能性の条件の分析という要素を認めながらも、超越論的観念論そのものは否定する「ストローソンの解体」という分類項目を設けている点である。ことに他分野からは経験の可能性の条件の超越論的分析を行うことと、超越論的観念論の採用が同一視されることがあるが、ストローソンが論じるように両者は分離可能である (Strawson 1966)。本研究の分類により「超越論的観念論そのものは是非」を分類項目に入れることにより他分野の哲学研究が「カント的」と呼ぶもののさらに正確な理解が可能になる。さらに、分類をショーペンハウアー研究に適用することで、特に近年のショーペンハウアー研究において支持を集めている、方法論的二側面解釈や形而上学的二側面解釈の採用が困難である点、また、現象主義的解釈がいっそうショーペンハウアーに親和的であるという点を示した。

なお、本年度には以上の理論哲学に関する研究に加えて、カントの実践哲学に属する根源悪概念に関する研究発表が属する。

[1] 中山弘太郎, 「理念の統制的使用と超越論的弁証論の四段階構造について」, 日本カント協会第48回大会, 群馬大学, 2023年11月11日. (研究発表)

[2] 中山弘太郎, 「カントの超越論的観念論論争の基礎と適用——ショーペンハウアーの場合」, 日本ショーペンハウアー協会関西地区第28回ワークショップ「ショーペンハウアーとカントの超越論的観念論論争の最前線」, オンライン開催, 2024年3月10日. (招待講演)

[3] 中山弘太郎, 「カントの根源悪概念に関する係争モデル」, 日本哲学会2023年度秋季大会, オンライン開催, 2023年11月26日. (研究発表)

#### 【参考文献】

Grier, Michelle 2001. *Kant's doctrine of transcendental illusion*, New York: Cambridge University Press

Strawson, Peter 1966. *The Bounds of Sense*. UK: Methuen & Co Ltd.

Willaschek, Marcus 2018. *Kant on the Sources of Metaphysics: The Dialectic of Pure Reason*. New York: Cambridge University Press